

R2年11月9日(月)

テーマ： 知っておきたいスキンケアの今 ～病院から在宅まで～
講師： 久保乃英先生 公立那賀病院 皮膚・排泄ケア認定看護師
場所： 看護研修センター
参加者： 65名

ねらい

- ・褥瘡管理に関する基本的知識・技術を学ぶ。
- ・スキンケア、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）、失禁関連皮膚障害（IAD）のリスク要因、予防ケアについて学ぶ。

スキンケアの正しい知識を確認しましょう！



スキンケアとは主として高齢者の四肢に発生する外傷性創傷であり、摩擦単独あるいは摩擦・ずれによって表皮が真皮から分離（部分層創傷）、または、表皮および真皮が下層構造から分離（全層創傷）して生じる（Payna R & Martin M,1993）と定義されています。つまり、摩擦・ずれにより発生する外傷性創傷です。

スキン・ケアハイリスク患者の予防

- 1 栄養管理
- 2 外力保護ケア
- 3 スキンケア
- 4 医療・介護メンバー教育
- 5 患者・家族教育

受講生は真剣に受講しており、最終はドレッシング材とリムーバーを用いて実際体験し、患者がどのような感じでドレッシング材を貼付されているか、剥がされているのかを体験できました。

“受講者の声”

- ※ 知識としては、ありましたが、再度研修で確認することができ在宅においてスキン・ケアへのケアサポートにより自信を持って関わることができます。
- ※ 正しいケアをすすめていきたいです。

R2年11月15日(日)

テーマ：看護管理者のための現場での暴力対策・職場で起こりやすいパワハラ
の事例と対策方法を知る!!

講師：三木明子先生 関西医科大学 看護学部・看護研究学科 教授

場所：Web研修(看護研修センター・職場)

参加者：29名(看護研修センター19名、職場10名)

ねらい

- ・不当な嫌がらせや暴力行為を受けた場合、自分を責めずに毅然とした対応ができるようにする。

- ・ハラスメントについての種類と定義等を理解する。

- ・ハラスメントのない職場づくりを学ぶ。

- ・スタッフからハラスメントに関する相談を受けた時のアドバイス方法を学ぶ。

- ・管理職のハラスメントに関する悩みを共有し対処方法を学ぶ。



三木明子先生は、Webで講義をされました。受講者は、会場19名、Web(職場)10名の参加でした。

パワハラと指導の境界線

- ・救急現場を新新人職員が見学中、職員に「そこに立っていたら邪魔」と叱責された。

→【理由を説明して提案型の行動】を伝える。「救急患者の手当てをしています、測定機器等設置しなくてはなりませんから、少し離れてください」…

パワーハラスメント“ゼロ”に“に向けた職場づくり

- 1.コミュニケーションが活発なオープンな職場(人間関係からの切り離し防止)
- 2.長時間労働のない職場(過大な要求の防止)
- 3.失敗を認める職場(精神的攻撃の防止)

ハラスメント(嫌がらせ)

しない(自分が)・させない(人に)・許さない(絶対に)

*各自、自己点検してみましよう!!!

R2年11月18日(水)

テーマ：看護記録の意義 —リスクマネジメントの観点から—

講師：岩淵泰子先生 東京都看護連盟 幹事長 前(社福)聖母病院 副院長

場所：和歌山県看護協会 看護研修センター 大ホール (海南市)

参加者：48名

ねらい リスクマネジメントの概要を学び、看護記録の重要性、記録内容、記録管理について理解する。



～看護記録の意義～

- 1 看護の実践を明示する
- 2 患者に提供するケアの根拠を示す
- 3 医療チーム間、患者と看護者の情報交換の手段となる
- 4 患者の心身の状態や病状、医療の提供の経過及びその結果に関する情報を提供する
- 5 患者に生じた問題、必要とされるケアに関する看護実践と、患者の反応に関する情報を提供
- 6 施設がその設立要件や診療報酬上の要件を満たしていることを証明する
- 7 ケアの評価や質向上開発の貴重な資料となる
- 8 医療事故や医療訴訟の際の法的資料となる

受講者の声

- ・この研修で学んだことを持ち帰り、自分の病院の記録委員として、監査にも役立ってたい。
- ・記録の充実は、常に目指すべき課題であるが、多忙な現場でのジレンマも!!

R2年11月20日（金）

テーマ：【JNA オンデマンド活用研修】

JNA ラダーによる教育体制と教育活動・評価のポイントと実際

講師：栗原 久美子 先生 新宮市立医療センター
看護副部長

場所：看護研修センター

参加者：40名

内容：ラダーによる教育体制と教育活動の展開についてJNAのオンデマンド配信の視聴と評価を行っている施設からの発表として、新宮市立医療センターの栗原久美子先生による講義も行われました。



ラダーに取り組んでいる現状や問題点、評価の仕方など詳しく話されました。



R2年11月25日(水)

テーマ：楽しく学ぶ循環器疾患とその看護

講師：和田直子先生 日本赤十字社和歌山医療センター
慢性心不全看護認定看護師
心臓リハビリテーション指導士

場所：看護研修センター

参加者：53名

- ねらい
- ・循環器疾患患者の特殊性、基礎病態を理解し、看護実践につなげることができる。
 - ・基礎的な心電図波形を理解し、疾患にまつわる心電図変化を捉えることができる。

受講者の声

☆ すごく解りやすかったです!!! 苦手な循環器が少し好きになりました。

☆ 苦手意識はあったが興味を持つことができたのが第一歩。



Take Home Message(フィジカルアセスメント)

- ・循環のアウトカムは『細胞の隅々まで酸素とエネルギーを供給すること』
- ・呼吸と循環のアウトカムは同じなので切り離しては考えられない
- ・循環と呼吸の維持に必要な機能は、①酸素を取り込む機能 ②酸素を含んだ血液の運搬機能 ③酸素を全身に送る機能
- ・心臓だけに注目せず、全身の循環をイメージし身体全体を評価してケアすることが大切

苦手意識を克服。素晴らしい看護に向けて

R2年11月30日(月)

テーマ：災害看護フォローアップ研修

講師：黒澤 和子 先生 Hospitality support 和心（わごころ）
所長

場所：看護研修センター

参加者：15名（内4名がWeb受講）

内容：災害看護の基礎知識、実際の支援活動状況について、災害時の3原則 自助・共助・公助。特に自助（自分の命は自分で守る）についての話は印象的でした。災害時の看護は看護の原点です。考える看護！災害支援ナースとして、熊本地震・東日本大震災など実際の活動、派遣準備から派遣終了・帰宅まで詳しくご講義されました。また、災害時のメンタルヘルス、話題のコロナウイルスの感染管理にも触れることができました。

4名の方がWebでの参加となりました。
中央で講義を受けた後、両サイドで
グループワークをしました。



R2年12月1日(火)

テーマ：災害看護フォローアップ研修

講師：黒澤 和子 先生 Hospitality support 和心（わごころ）
所長

場所：紀南ビッグU

参加者：4名

グループワークでは、災害について多くの意見交換ができました。

南海トラフ巨大地震時のシミュレーション・トリアージタグも実際に記録しました。

